

○議長（篠原 功君） 次、2番、下道議員の質問を許します。

2番、下道議員。

○2番（下道英明君） これから、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回の質問は、移住定住対策について、また、観光資源の利用についての二つの大きな項目で項目でお伺いいたします。本日最後の質問者でございますので、ひとつあともう少しでございますので、よろしくお願いいたします。

最初に、移住定住対策についてでございますが、先ほど立野議員から移住定住対策のためのビジョンづくりという質問、またご討論、また行政の婚活支援の提案等、詳細になされましたので、私、まだ婚活している身でありますので、もしかしたら行政の婚活支援サービスを受けるかもしれませんので、質問予定と重複する部分は若干割愛しながら進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に今回の町政執行方針の中で、新たな定住と交流を生む都市基盤づくりということが掲げられておりますが、NPO法人、今回、住んでみたい北海道推進会議、この中の北海道移住促進会議を利用した移住体験、ちょっと暮らしですか、この洞爺湖版が今回、洞爺湖町ちょっと暮らしだと思っておりますけれども、さきの昨年末の12月の定例会で若干、概要をお聞きしておりますが、改めてこの事業の内容と現状をお伺いしたいと思っております。

○議長（篠原 功君） 鈴木企画防災課参事。

○企画防災課参事（鈴木清隆君） 23年度のちょっと暮らし事業の具体的工程であります、現在、洞爺湖温泉旅館組合に6泊7日でホテル、旅館に低料金に宿泊していただくプランをつくっていただいております。そのプランが出そろった時点でホームページに掲載して、定住を考えている方々に呼びかけ、洞爺湖町に滞在していただくことを計画しております。

ホームページでの使い方なのですが、一つには洞爺地区、それと温泉地区、そして虻田地区の住み心地という部分を紹介しながら、ホテルの料金等を提示して紹介していきたいと思っております。

また、それに募集された方には、滞在期間中2日間程度、職員が定住するに当たっての町内外を案内することにしております。また、その中には町内に今、町外から住んでいらっしゃる方々も多くいらっしゃいます。その方々と意見交換ができる場面をつくってまいりたいと考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） まだこれからスタートされるということなのですが、今までの準備段階の段階から見通しというのですか、そういうのをあれば参事のほうからお願いいたします。

○議長（篠原 功君） 鈴木企画防災課参事。

○企画防災課参事（鈴木清隆君） 他町村では、ちょっと暮らし用の住宅を建設して、そちらに1カ月、2カ月住んでいただいている市町村もございます。ただ、洞爺湖町の部分で



は、今そういう施設の部分がございませんので、洞爺湖温泉にありますホテル、旅館を活用して、まずは進めていきたいという形で進めております。

現在、ホテル、旅館組合のほうから4件ほど、料金の提示が出ております。それがまとも次第、今度は北海道の移住促進協議会、また暮らすべ北海道というホームページ等もございますので、そちらのほうにも掲載をして、定住のしたいという希望する方に公表していく準備を今しております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） 大体、概要わかりましたので、ぜひ成果が出るような期待をしております。

今回、移住定住対策を一般質問のテーマにいたしました。過去4年間のちょうど議事録を読ませていただきました。その中で、多くの先輩議員の皆様が移住定住対策について質問されておりました。特に、議事録を読み込めば込むほど、この移住定住対策、先ほど立野議員もいろいろご議論ありましたが、非常にこの移住定住対策が大変、難易度が高い問題であり、なかなか道筋を見つけるのは難しいのかなという感じをいたしました。

この4年間の中では、板垣議員がサミットを機に空き店舗対策を、また定住自立圏構想からの定住対策について、また、どうする空きホテル対策という形でご議論がございました。また、宮田議員のほうは、定住促進へ積極的情報発信をという形でのご提案、いろいろご質問があったり、また大西議員からは洞爺湖町の活性化の観点から定住移住の促進について、また洞爺湖準都市計画区域指定に関連した定住促進対策ですとか、そういったことがございました。

また、サミットに関連いたしまして、佐々木議員のほうからサミットによって得たものという観点から、町民会議、ボランティアによる町民一丸となった町づくりということで、これもまた同じく定住移住対策について論じておりました。そしてまた、直近では松井議員のほうから地域が支え、地域が守る町づくりの観点から、空き家、廃屋対策について先般行われました。また、12月の定例会議におきましては、千葉議員のほうから定住対策の協議会の設置をということで、そういった観点から定住空き家店舗対策について多くの質問がなされました。

この問題というのは、本当、大変大きな課題であると同時に、この1時間、あるいは90分の中でご議論していくというのは、なかなか難しいのかなと思っております。また、この議事録を読み解いていきますと、いわゆる地域定住自立圏構想を利用した移住定住対策、また、定住対策として約20年間隔で起きる噴火の大きな打撃への忌避として月浦等や、あるいは洞爺の高台への噴火にも障害のない地域の選定といったことが質問等であったかと思えます。

そしてまた、先ほどもありましたけれども、やはり定住対策としてのウェブのさらなる活用、いわゆるインターネットですけれども、こういったところでいわゆる示していくという形では確かにインターネット等、そういうツールを使うというのもいいのですが、さ



らにどんどん今、進化しておりますので、ただ単にネット上でお示ししていただくだけではなくて、いろいろな形で全国にアピールしていくことは非常に大事なのかなというのありました。

また、都市計画時時計法の中でも、いわゆる区域外における定住環境の整備というもございましたけれども、今までの定住移住対策の中で、地域住民とのいわゆる協力支援ですとか、体制ですとか、そういったところでの取り組みはどういったものだったのでしょうか。

というのは、やはりこの4年間の中で、各先輩議員の方たちが定住移住について論じておりました。そしてまた今、さらにこういった形で問題が提起されていって、なかなか大きな道筋というのが見えないという、それが何が原因なのか、当然それは経済的なマクロ的なものもあるでしょうが、しかしながらそういった上から目線で移住対策ということではなくて、やはり地域の人たちとのコミュニケーションをリンクしながら進めていくことが大事だと思うのですが、今までの経緯というのをいま一度お示しいただければと思います。

○議長（篠原 功君） 鈴木企画防災課参事。

○企画防災課参事（鈴木清隆君） 洞爺湖町合併した後も、移住定住という部分でいろいろ取り組んでいるかと思います。

町の方々、また町外の方々にいろいろお話を聞きますと、まず洞爺湖町に移住するので大きなリスクというのは災害という部分があるかと思います。2000年噴火の後も人口が減っているのと同時に、77年、昭和52年の噴火後も洞爺湖温泉4,000人近くの住民がいた部部が、2000年の噴火のときには2,100人という形で減ってきております。

そうした中では、本当に諸先輩も移住定住の部分に関してどのようにしていけばいいか苦勞しながら邁進してきたところですけども、人口がふえてきているところでは現在ございません。

ただ、今、必要な部分では、それ以外にも町外から洞爺湖町に住んでいる方々が多くいらっしゃいます。洞爺本町地区にも青葉地区、入江地区、多くの方が札幌のほうから移住してきておりまして、以前いた課の中でもいろいろな行事をやっていると、洞爺湖町に住んで本当によかったとお話ししていただける方も多くいらっしゃいます。

そういう方々と今度、移住を希望される方々をお会いしながら洞爺湖町のよさ、または洞爺湖町に住んでみてこのようなことがあったという部分をぜひ、これからお話し合いの場を設けて展開していきたいと思っております。

また、メディアの部分ですけども、ITだけではなくマスコミ、そういう部分にも多く出して、洞爺湖町が活動している、動いているという部分を少しでも出していきたいと考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） 大体、経緯のほうはわかりましたが、その中で昨年12月にちょうど



千葉議員のほうから、定住対策協議会を立ち上げてはとのご提案がございました。本年度の執行方針には触れていないとは思いますが、ぜひこういった協議会等を立ち上げていただければと思います。

特に、観光協会、あるいは商工会、農業関係者、漁業関係者、また建設関係者等、いわゆる上からのピラミッドではなくて、フラットな形での定住、移住についての自由な議論というのは必要なのではないのかなと思います。

最近、そういったフラットな形というのは、いわゆるコンソーシアムというのですか、そういったコンソーシアム構想、つまり横と横との連携の中で出していく。例えば、観光協会から何人か出ていただいたり、建設業界の方、あるいは漁業組合の方、農業組合の方、そういった方たちと一緒に、その定住、移住について論じていくと。

必ずしも防災企画、あるいは役場だけの形でやっていきますと、なかなかブレイスティングというのですか、いろいろなお話をしていく中で案というのは出てこないと思うのです。

そういった点で、そういった新しい協議会というのを、その点がさきの定例会において千葉議員のほうからあったと思うのですけれども、こういった異業種がお互いにアイデアを出しあって、同じ目標に向かって取り組んでいくということが、この定住移住対策の道筋を見つけられる一つの方策になるのではないかなと思うのですけれども、今回、前回の議事録の中でも町長のほうから諮問機関を立ち上げる時期が来ていると思うという議事録がありましたけれども、一つ町長のほうから、先ほど立野議員もありましたが、町づくり総合計画の見直しということを含めて、この定住対策協議会なるものを、近い将来において立ち上げていく可能性があるのかを含めてご意見をいただきたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） 私のほうで、いわゆる町長とざくばらんに、あるいは町長にいろいろな意見を言っていただけるような機関を、ぜひ新年度では立ち上げていきたいというふうに思っております。

ただ、それが即、定住対策云々ではなくて、広い意味で町長にご提言をいただけるような、そういう組織を立ち上げてまいりたいと。それは委員会になるのか、協議会になるのかちょっとまだはっきりはしておりませんが、ぜひそういう方々のご意見を聞いて、町づくりに反映をさせていきたいなというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ありがとうございます。

空き店舗対策につきましては、先ほど質問が長くご議論がありましたので、重複する質問がありますので割愛させていただきます。

まず、定住移住対策、会議より始めようという言葉がございましたが、私自身、みずから率先して頑張ってみますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次に観光資源の利用について、自然の観光資源と文化財の観光資源の側面か



ら、その利用、活用についてお伺いいたします。

本年、9月28日から10月1日まで、4日間の日程で、日本ジオパーク大会が洞爺湖文化センターで主会場に開催されますが、執行方針にありますように、非常に今回の大会というのは、メディアのほうで報道などPR効果があるかと思えます。

また、洞爺湖有珠山ジオパークのコンセプトというのは御承知のとおり、2000年に噴火した有珠山とその被害以降、昭和新山大噴火で形成されたカルデラ湖である洞爺湖が見所ですが、昨年10月には新たに山陰海外ジオパークが認定されました、また、糸魚川ジオパーク、島原半島ジオパーク、そして当町に関連を受けます洞爺湖、有珠山と、四つの地域が限定されておりますけれども、まずこの日本ジオパーク大会を開催するに当たりまして、まず最初にどのような準備を考えているのか、また、現状での計画、また予定していることがあればお示しいただきたいと思えます。

○議長（篠原 功君） 澤登振興観光課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） ジオパーク大会に向けての準備の状況ということで、私のほうから答弁させていただきたいと思えます。

先ほど議員がおっしゃられるように、9月28日から10月1日、日にちについては確定してございます。その中で、主会場、メイン会場となる施設が洞爺湖温泉の文化センターということでございます。

この大会に向けて、運営の組織といたしましては、1市3町が組織してございますジオパークの協議会という組織がございまして、この大会に向けては組織委員会、それから実行委員会という組織をもって、現在、準備を進めているところでございます。

その下部組織としては、実際には科学学術部会、これは大会の講演ですとか、表彰関係ですとか、事例発表、大会の内容、中身についての部会でございます。

次に、おもてなし部会ということで、これは全国各地のほうから来られるということと、地域周辺の住民も参加いただくために、いろいろな企画を設けてございまして、こちらのほうでは例えば宿泊関係ですとか、昼食関係、それから地場産品等の特産品などの出店等も考えておりまして、もろもろのお迎えするに当たってのおもてなし部会というものがございまして、

次に、ジオツアー部会というものがございまして、これは先ほど世界ジオパーク認定に伴いまして、各エリア内で、各地域に各コースがございまして、こちらのほうを案内する、それから大会に向けての各コースの整備等もございまして、そういったところを担う、こういう各部会と、これは住民の方、関係組織団体等もございまして、こういう中で今、現在、取り進めている状況でございまして、

それから、あとの組み立ての中で大まかな会議内容といいますか、大会の内容といたしまして、本大会によるシンポジウム、文化会、事例発表等がございまして、この中には、あわせて周辺を散策いただくジオツアーというものも企画されてございまして、

それから、プレイイベントということで、大会前に向けて機運を情勢をするために、ジ



オツアー、それからフォーラム等を開催して、先般も壮瞥町のほうでその一環としてフォーラムを開催したところでございます。

以上でございます。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） 今、課長のほうからソフト面について概略等を部会云々ということでお聞きいたしましたけれども、この大会に向けてのいわゆるハード、施設面について整備について、いま一度お願いいたします。

○議長（篠原 功君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 大会準備のハード面というご質問でございます。

これは、当町内においては、一つは各場所といいますか、ジオツアー等での主要な箇所の説明板等を設置するという事業がございます。これを町内においては実施する旨、予算立てをしているところでございます。

一つには、その後の再審査というものもございまして、それに向けての各そういう箇所での整備ですとか、そういうものも審査対象になるというところがございます。それに関連して、移動に伴うそういうハード面の整備ですとか、そういったものも関連的には出てようなかというふうな状況でございます。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） わかりました。

まず、本当、洞爺湖、有珠山のこのジオパークのテーマというのは、変動する大地との共生ということでございます。特に、有珠山と昭和新山、洞爺湖の中で、有珠山、昭和新山に関しては施設設備というのは、必ずしも十分条件ではありませんけれども、必要条件というか、最低ラインというのは満たされていると思うのですが、しかしながら洞爺湖という側面からいきますとどうなのかなと。当町のシンボルマークであります、この洞爺湖のバッチのほうも、やはり中島が大きく出ているわけなのですけれども、この中島がご承知のとおり日々、植生被害が拡大しております。

今回、私は数回、エゾシカ対策について質問させていただきましたが、なかなか解決の道筋が見えません。もどかしさを感じております。また、多くの町民の皆様からいろいろな連絡等を受けまして、同様のお気持ちということで、何度ももっとエゾシカ対策について積極的に質問をなさいたいという、ご指示ではございませんがお話を受けております。

また、特に中島だけではなくて、やはり洞爺湖周辺のエゾシカによる農業被害も深刻度を増しております。この2週間でも、私は昭和新山、あるいは三豊トンネル付近でもう2回ほどエゾシカが道路を横断するというのを見ました。

その中で、先月、ちょうど27日でございますか、胆振管内で初めての猟友会と行政機関によります合同エゾシカ駆除が登別市の幌別ダム北側の鳥獣保護区で実施されましたけれども、こういった洞爺湖周辺でもこういったことを今後同じような形で、胆振総合振興局を巻き込んで実施していくのか、そういったところを産業課のほうでお聞かせください。



○議長（篠原 功君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） ただいまのご質問ですけれども、総合振興局を中心に今、地方の連絡協議会というのを設けております。その中で、登別で対処されたのではないかと考えておりますが、今、現在としましては、そのような現地研究会といいますかは予定しておりません。

ただし、うちの町の場合、今年度、道職員対象に仕掛けわな等の講習会といいますか、勉強会を開催した経緯がございます。それで私ども、農業被害対策につきましては、予算措置でも御承知のことと思いますが、各種わなですとか、くくりわな、それから箱わな等を整備しまして、いつでも貸し出しできる要項も設けて対応することになっております。

ただ、物によっては狩猟の免許が必要だということで、昨年暮れから研修会等をもちまして、実はできるだけ多くの農家の皆さんに狩猟免許の取得をしていただこうということで、会議、研修会等をもちまして、新たに今年度といいますか、12名程度の方が農家の方が仕掛けわなの免許を取るということで進めております。

そのような形で、私どもの対策としましては、当面は国の補助金をいただいて、確保したくくりわな、箱わな等を活用していただいて、自分の農地を守っていただくような対策を強化していくということで駆除対策を考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） くくりわな講習会については、昨年ですね。私も承知しておりますけれども、ちょうど先月27日、登別市でそういった駆除対策が行われた日、同日ですけれどもちょうど洞爺湖文化センターで当町と提携しております酪農学園大学の生物多様性フォーラムが実施されまして、私、そこに参加させていただきました。

学生諸君の意見、調査報告等を聞きますと、やはり想像以上にこの洞爺湖周辺、そして中島の植生被害が進んでいるなというふうに驚きを禁じ得ませんでした。特に、報告の中のプレゼンテーションを聞きながら深刻化する植生被害、農業被害をもう考える、発表する、考察する時期から、もう駆除作戦というのを現実実施していかなければいけないという、そういう時期に来ているのかなと確信いたしました。

先般、北海道新聞のほうに一面のほうで、どうするエゾシカ道東からの報告というのがございましたが、その中で連載の中でどうすればシカを減らせるか、試行錯誤を続けながら、北海道に適した手法を確立するしかないというのが、関係者の共通認識というコメントがございましたが、この中でやはりエゾシカ対策を考えていく中で、中島全体、洞爺湖周辺の被害を一気に解決するということは、はっきり言って手段は非常に難しいと思います。

そういった中で、しかし行動は起こさなければいけない、そういうところを考えますと、特に洞爺湖中島においては、中島での植生回復というのはなかなか一気にはいかないですけれども、その手前にあります小さな島でございますが、先行して弁天島、観音島の、この植生被害の回復ができないのかなというふうに考えております。

それで、その中でどうしても中島の中で大島ということになると、なかなかいろいろな区



分がございますが、弁観に関していけば非常に小さい島ですから、そこを何とかこの日本ジオパークを契機に、一つエゾシカ対策と同時に植生回復、そしてまたいわゆる弁天観音島の観光資源に結びつけられないのかなというふうに思っております。

また、特に中島のような鳥獣保護区においても、いわゆる鳥獣保護法に基づいて生態系や農林水産業に被害を生じている場合云々ということで、有害鳥獣駆除というのですか、そういう形で許可捕獲ですとか、狩猟が適応できるのではないかなというふうに思うのですが、エゾシカ対策として、弁天島、観音島の2島での北方領土の交渉ではないですけども、先行2島で、先行駆除を定期的に胆振総合振興局の助言を得ながら、また地元の猟友会、そして民間の汽船会社の協力を得ながら、実際この2島についてできないのかなと、そういう提案なのですけども、いかがなものでしょうか。

○議長（篠原 功君） 伝産業課長。

○産業課長（伝 正宏君） もどかしいというお話がありましたが、実は去年の11月、今までありました洞爺湖エゾシカ対策協議会というのを解散をしまして、その中で中島の自然環境を取り戻すため、新たな会を設立して、原点に戻り、その対策を検討していくということで、実は2月15日に関係機関の代表の方にお集まりいただきまして、そこら辺の打ち合わせを行っております。

その中で、今後の設立に向けて地元関係機関が中島の自然環境保全を目的に、基本的にエゾシカの個体駆除を進めることで、今までは共存共栄というようなことで考えておりましたが、やはり駆除というような形で進めるということで意見の一致を見ております。

ただ、意見の一致は見ましても、関係機関、地元住民の方がおられます。それで、今後の進め方としては、事務局により新しい会の構成員の検討、それから活動としては具体的な話も出ましたが、地元の住民の皆さん、中島になかなか行かれなくて現況が把握できていないのではないかと、そこら辺も含めて中島の実態を把握するための現地視察ですとか、あとこれを踏まえての対策の検討、それから地元の意向の取りまとめ等、そういう過程を経て、関係機関を含めた検討会を開催していくというような形での、今、活動計画を作成しているところでございます。

私どもも、できれば下道議員が言われましたように、個人的には即弁天、観音なんかやるのではないかと、やってほしいという気持ちはありますが、やはり中島のシカにつきましては営林局さん、それから北海道さん、それから環境省さん、そのほかに中島のシカの研究している研修者の皆さんが活動しております。そこら辺のご理解をいただいた中で、どう進めていくか、皆さん納得した中で地元の意向も一致させて進めていかなければならない事項であらうと思っておりますので、なるべく早くはしたいのですが、そこら辺の過程を経た場合には、少々といいますか、またいらつくかもわかりませんが、少し時間をいただきたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） 今のお話の中で、ちょうど駆除という点では共通のコンセンサスとい



うのですか、できてきているのかなと思いますけれども、ただ中島の大島を触っていくという形になってくると、どうしても結局、この問題というのは非常にどんどん先送りされていたという経緯がございますので、やはり現実問題として小さい島ということで、弁観のほうから着手していくという、そういった強い思いを指導というのですか、そういう形で動いていただきたいなと思うのです。

それで、その中で素人目でございますけれども、やはり弁天、観音島の駆除、これはちょうど中州があって、すぐそばですから大島からすぐ移動が可能かと思うのですが、仮に銃は使わなくてもくくりわなですとか、そういった形で全面駆除をするという形で、これは定期的に、例えば5月とか6月にやって、ゼロ頭になってもまた移動してくる場合もありますけれども、もうエゾシカに学習効果として、弁観に行ったら死んでしまうよという、それぐらいの定期的な、エゾシカも学習効果がございますので、そういったところでボスになるシカにやはりそういった学習効果を持たせていけば危険な地域と、そういう形で長い形での政策というのは必要になってくると思うのです。

ぜひ、2島を先行した形での駆除作業というのは行っていただきたいと、そしてまた、この駆除作業を行うことによって植生回復、また中島とか、弁天、観音島に関しては、先般9月の一般質問にさせていただきましたけれども、弁天堂、観音堂という文化的資産がございます。今回、日本ジオパークのこういう機会に、ぜひ胆振総合振興局、北海道を動かしてせっかくいい機会でございますので、予算がとれるものであればしっかりとって、その弁天、観音島の上陸のインフラ等を含めて整備していただきたいと思いますが、ちなみにこの弁天島、観音島の上陸ができるとか、こういう整備とか、こういったことが行うときにやはり、こういう厳しい財政状況でございますが、整備、栈橋の修繕等、大枠の費用とか、そういった概算については把握されているのかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） 中島でございますが、中島4島ございまして、中島の大島につきましては町でお借りしております。弁天、観音島という島につきましては、民間であります遊覧船会社が森林管理局からお借りしている土地でございます。

現在、弁天、観音については上陸できない状況の要因といたしまして、栈橋の老朽化、トイレの浄化槽の故障、そのほか人件費的な安全管理上の人の配置、今現在、遊覧船にも多くの外国人が乗っておりまして、先般もお答えしましたが外国人の方がほとんど上陸しない、大島にも上陸しないような状況でございます。

それらを踏まえまして、今、弁天、観音島の上陸はどうかということでございますけれども、企業のほうとお話ししたことがございます。今、現在、栈橋、浄化槽、それらを直す費用としましては、最低限3,000万円が必要というふうに企業として考えてございます。そのほか、毎年の人件費の運営費、安全管理上、上陸して帰れなかった、忘れたとかという形の人員費が年間300万円ぐらいかなということで、現在の景気の状況では即あけてお客さまに利用していただくというのは厳しいのではないかと。



ただ、これらの問題につきましては、一企業という以前に森林管理局、環境省と、関係機関と町と一体となってどのようなあり方がいいのかと、これは中島本体も含めて協議してまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） 参事、ありがとうございました。

こんなに費用がかかるのかなということで、ちょっと驚いているのですが、いずれにしても、昨年の9月の一般質問におきまして、ちょうど観光振興課からのほうでご答弁いただいたときには、観音島、弁天島のルートの復活というのは民間の運行会社のご理解がいただかないと、なかなか実現できないと、また洞爺湖周辺のジオパークをめぐる各種コースなどの設定などは、小型ボート等で小さな島に入って、散策できるようなコースというのは設定の値はあるのかなというご答弁はいただきましたけれども、今の費用ということで見ますとなかなか厳しいのかなと思いますけれども、しかしまだまだ厳しい財政下ではございますけれども、先が見えませんが、しかしせっかく日本ジオパーク大会という開催を機に、できればこの観音島、弁天島へのアクセスの施設整備、これによりエゾシカの2島先行駆除というのですか、こういったことを実施して、さらにまた植生回復への挑戦、そして弁天堂、観音堂の文化遺産の見直しというものを2島散策ルートを復活させることによって、これは洞爺湖観光の多様化にもつながるわけでございますので、ひとつ洞爺湖観光、非常に閉塞感がございますが、この洞爺湖観光の振興の前進ということでご尽力いただければと思います。が、町長のほうで一つこの日本ジオパークに対して、またこれからいろいろな予算等とか出て、あるいは北海道、胆振総合振興局を巻き込んで、ぜひ町長のお力をいただきながら、この弁観の再生、また閉塞感のある洞爺湖の観光のさらなる多様化に向けて、ぜひ道筋をつけていただきたいと思います。が、いかがでしょうか。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） 今回、9月28日から、日本ジオパークの洞爺湖有珠山大会が、私どもの町洞爺湖の文化センターを中心として開催される、これは決定されたところでございまして、これから先、2008年の北海道洞爺湖サミットがあったときと同じように、そこまでできるかどうかあれですけれどもいわゆる町内の清掃、そして花壇の整備、あるいは部落の整備、そして訪れる方々が洞爺湖はいいところだという、思われるような施策をこれからどんどん講じてまいりたいと、そのためには役場全体として、町民の皆様にもご協力をお願いしなければならぬかなと思っていますし、その節には議員各位の皆様にもご協力を一つよろしくお願いしたいと思っています。

また、事業の開催に向けて、ここは火山の地でもございます。町民の皆様にはジオとは何とや、あるいは火山の学習を含めた勉強会、特に小学校、中学校の子供たちを中心とした方々に、この火山の、またはジオの勉強会をぜひこれから9月まで何回か実施をしていきたいなというふうにも思っております。

そのときには、ここには火山マイスターの方も町内にいらっしゃいますし、あるいは有珠



山ガイドの方々もいらっしゃいます、西山火口、あるいは金比羅役火口を利用しながら、そういうこともぜひやっていきたいなというふうにも思っております。

洞爺湖は、この洞爺湖有珠山ジオパークの一環でもございます、カルデラ湖ということでございまして、洞爺湖そのものがジオパークの1カ所にもなっております。今、ご指摘のございました中島は、洞爺湖の本当にシンボルでございまして、相当、その森林が破壊されているといいたいでしょうか、特に植生回復については、これは緊急の課題でもございまして、今までいろいろなことでチャレンジしてきましたが、なかなか実を結んでこなかったという現実もございます。

今回も、先ほど産業課長が答弁しておりましたが、昨年にいわゆる中島のシカ対策協議会が解散になりましたけれども、また新たな組織を設置いたしまして、何とか中島からシカをできる限り削除するような、削除といいたいでしょうか、駆除できるような方策を講じてまいりたいというふうにも考えております。

それと、弁天島、観音島の関係でございますが、なかなか今、民間さんで借りているところもございまして、今すぐどうのこうのなんていうのは、なかなか難しい状況がありますけれども、中島、四つの島を総体的にとらえまして、また何かきちっとした形、森林が生き返られるような方策をまた検討してまいりたいというふう考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございます。

さまざまな財政的な制約がございますが、繰り返しになりますけれども、ぜひ北海道、また胆振総合振興局等のお力をいただきながら、巻き込みながら日本ジオパーク大会開催に向けて、インフラ整備のほう、ぜひご尽力いただければと思います。

それでは、最後の質問に入らせていただきます。自然観光資源から、文化財観光資源に話を移してまいりたいと思います。

先般、史跡入江高砂貝塚整備基本計画の公開会議が当役場でございました。傍聴させていただきましたが、まず最初に、この整備事業計画の概略をご説明していただきたいと思えます。

○議長（篠原 功君） 木村社会教育課長。

○社会教育課長（木村省平君） 史跡入江高砂貝塚の保存整備についてのということでございますけれども、この部分につきましては、まず史跡入江高砂貝塚の整備のこれまでの経過についてご説明いたしまして、今後の見通しについてお答えしたいと思います。

史跡入江高砂貝塚のうち、入江貝塚につきましては、昭和63年5月13日に史跡指定を受け、平成7年7月より、ふるさと歴史の広場事業として整備を開始し、平成10年4月に史跡入江貝塚公園としてオープンしております。

また、高砂貝塚については、平成14年3月19日に追加指定を受けまして、史跡の総体の名称を入江高砂貝塚となっております。その後、高砂貝塚の整備に向けて数度にわたって発掘調査を行ってまいりましたが、平成20年12月、史跡入江高砂貝塚が世界遺産の暫定遺産一



覧表に追加記載されたことから、入江高砂貝塚の範囲の確定が必要になったことと、発掘調査の結果により、平成14年に追加指定された区域と連続する区域について、これも重要であるとのことから、改めて指定地の追加について整備検討委員会から提言がございました。

入江高砂貝塚の周辺分布調査を行いながら、指定地の追加について地権者との協議を進めておりましたが、地権者からの同意をいただき、平成23年度中の追加指定の承認を文化省よりいただくべく事務を今、取り進めているところでございます。

現在までの経過については以上でございます。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ありがとうございます。

先日、この公開会議は、ちょうど座長の國學院大學名誉教授の小林先生が、初め多くの専門家の皆様がいろいろな大変示唆に富むお話をさせて聞かせていただきました。特に、町づくりに連動する文化的観光資源としての空間づくり、またJR洞爺駅から縄文遺跡のある町をアピールするべきですとか、あるいは温泉街のホテルのロビーなどに縄文土器のレプリカを置いたり、縄文遺跡のある町のイメージをデザインすることがとても大事だと、そういった示唆に富むお言葉をいただきました。

その中で、この遺跡というのを個々ではなく、群として考えたときに、この噴火湾沿岸のいわゆる縄文遺跡群ネットワークが大変大事になってくると思うのですけれども、こういった整備基本計画というのは当然、専門家にお任せするといたしまして、町内のこういった貴重な文化財の情報発信というのですか、関心を喚起させる地元の努めで当然あると思うのですけれども、そういったところで教育委員会のほうとしては、こういった広報的な動きをされるのかなというのをとお尋ねしたいと思います。

○議長（篠原 功君） 木村社会教育課長。

○社会教育課長（木村省平君） ただいま下道議員のほうからありましたように、この入江高砂貝塚の整備については、北東北含めた4道県で、社会遺産に向けての整備という、遺産の登録に向けての今、情報発信等を行っているわけでございますけれども、その基本となるのはやはり住民の方々との協働ということで、まずこの整備、保存、活用については住民の方々とともにやっていくという考え方が基本となっております。

そのための組織づくりや勉強会などを今後、実施しまして、町民に愛され、町民の憩いの場となるような史跡づくりを進めていくということを基本に考えております。

また、ただいまありました町内の貴重な文化財等をどのように情報発信するのかということで、庁内的な部分としましては、旧虻田地区、旧洞爺村地区にあります文化財史跡をめぐる事業としまして、年2回の文化財ウォークラリーを実施して、町民の方に町内の文化財等を知っていただくという事業を行っております。

また、平成21年度に洞爺湖町で開催されました縄文シティーサミットを契機にしまして縄文祭り、これを昨年も行いまして、今年度も実施することとなっております。また、子供たちに向けて、この縄文に対する興味、関心を持っていただくという事業としまして、縄文キ



ッズにつきましても年間10回程度の講座を開きながら実施していくことを考えております。

また、町民の皆様に、この縄文について知っていただくということで、今回、高砂貝塚から出土した土偶も展示される、北の土偶、縄文の祈りと心展というものが、北海道開拓記念館で4月15日から5月25日まで開催されることとなっておりますので、町民の方々を募りまして、この見学ツアーを実施したいというふうに考えております。

また、町内にあります無形民族文化財であります、獅子舞の後継者育成対策として、獅子舞保存会の協力を得ながら獅子舞体験の企画なども行うよう協議を進めていくところでございます。

また、町外につきましても、このほかあらゆる広報媒体を活用しまして、この町の文化財、この入江高座貝塚についての情報を発信していきたいというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ありがとうございます。

私も、ちょうど縄文研究会の副代表として微力ですが、広報活動をやっておりますけれども、昨年、ちょうど縄文祭りがありまして参加させていただいたのですけれども、主に教育委員会中心に皆さん方、ご尽力いただいたと思うのですけれども、やはりこの縄文というのは文化遺産としてどうして観光振興課とかつながってこないのかなと、ちょっと不思議に思ったのですけれども、そういった点で観光振興課としてはこういった縄文遺跡、先般、縄文サミット等ありましたけれども、その後のつながりとしてなかなか教育委員会との横の関係というのですか、こういったものが見えてこない、そして入江貝塚を知らしめる意味で、今度はマラソン大会のときに縄文鍋ですとか、あるいはツーデymarチのときに縄文鍋を地味と研究会でやっていこうという形で動いておりますけれども、ただそれだけではなくて、やはりそれは教育委員会との地元の研究会との関係かと思うのですけれども、やはりここに観光振興課のプロの町長部局があるわけですから、ここら辺と連携しながら、もう少し縄文ということに対してのアピールというのは必要かと思うのですが、そういった点で観光振興課のほうとしてはどういったとらえ方をしていращやるのか、ちょっとお聞きしたいと思うのですが。

○議長（篠原 功君） 佐々木観光振興課参事。

○観光振興課参事（佐々木清志君） 縄文遺跡につきましては、修学旅行、特に小学生の修学旅行の誘致の最大の目玉として考えてございます。

現在、入江貝塚等の噴火前ですけれども、整備が完了したときには230号線のルート上の問題がございまして、一時、修学旅行のルートだったのですけれども、今は泉で230号が切りかわってしまったときの工程の不備がエイジェントから指摘されてございます。

それと、それにあわせましてルートの的に札幌圏から約107校ほど入ってございます、修学旅行。その中で、北黄金ですか、あちらのほう整備大変進んでございまして、なおかつそのボランティアガイド、それらの育成が先行しておりまして、そちらのほうの活用をお願いしているような状況で、修学旅行のPRという形でございます。



今後、入江高砂整備になりますと、高砂地区になりますと230号ですか、こちらのほうが大変便利になるので、今後一層修学旅行の誘致等に活用させていただきたいというふうに連携してまいりたいと思います。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございました。

過去のちょうど議事録で、七戸議員のほうで入江高砂貝塚世界遺産へ前進と、その前にみんなで学ぼう縄文の心ということで、ちょうど縄文サミットの関連した一般質問の記録、議事録がございました。

その中で、いわゆる入江高砂貝塚への誘導ですとか、貝塚間への記録があったのですが、誘導ですとか、貝塚間の案内板がいま一つ不十分だという質問等がありまして、それから当然、もう年月たっているわけですが、実際、地域の方々ですとか、観光客の方がよくわかっていないというか、場所が見つけにくいと、そういった点で親しみのある誘導サインを今後検討していくというのは以前ご答弁にありましたけれども、私は見ていて何か当時から余り改善されていないような気がいたしますが、こういったせっかく誘導するというサインというのですか、今後の誘導標識の追加設置計画というのは、あるいは改善計画があればお示しいただきたいと思います。

○議長（篠原 功君） 木村社会教育課長。

○社会教育課長（木村省平君） 教育委員会としてのサイン等の設置ということでございますけれども、今、ジオパークの中でいろいろな施設についてのサインを整備するという計画でございます。

その中で、この入江高砂貝塚につきましても、ジオパークの一公正資産となっておりますので、その中でのサインの設置ということで今、推進協議会で取りまとめている部分の中で整備を進めていきたいなというふうに考えております。

○議長（篠原 功君） 2番下道議員。

○2番（下道英明君） ご答弁ありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、町の発展に縄文遺産をどう扱っていくのかということで、一つ町長のほうからお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（篠原 功君） 町長。

○町長（真屋敏春君） これから、ようやく高砂貝塚が整備に入っていくわけですが、御指摘のとおり小林辰男先生からも、いろいろアドバイスをいただいているところでございます。

私どもの町、それらが整備されますと、これで本当に史跡入江高砂貝塚が整備できるのかなという思いがございしますが、入江貝塚と高砂貝塚を結ぶ、今、細い町道がございしますが、できることであればこれを縄文ロードというふうな形に持っていきたいなと。

それから、うちの町にも縄文遺跡群がありますよ、そういうPRはいろいろの場面でこれからどんどんやはり外のほうに発信していかなければならないかなというふうにも思ってい



単なる教育委員会だけではなくて、町としても一体となってこれからその整備、あるいは活用について尽力をしてまいりたいというふうに考えております。

○2 番（下道英明君）　ご答弁ありがとうございました。

○議長（篠原 功君） これで、2番、下道議員の質問を終わります。

本日の一般質問は、これで終了をいたします。

○議長（篠原 功君） 以上で、本日の日程は、すべて終了いたしました。

ご苦労さまでした。

(午後 4時13分)